

## 6.2.6 動物の主な生息基盤の変化の程度

動物の主な生息基盤の変化の程度は、表 6.2-6 (P6.2-7) に示す。事業実施に伴い計画道路等による直接改変の可能性がある立地は 59.02ha で、調査地域全体の 5%程度である。直接改変の可能性がある立地（事業実施区域内）での主な生息基盤の占有面積は、「農耕地（45.1ha）」が一番大きく、次いで「市街地・集落（9.24ha）、樹林地（3.16ha）」の順に大きい。「河川（疎林・草地）」と「河川（開放水域）」の直接改変の可能性がある立地は 1ha 未満である。

表 6.2-6 動物の主な生息基盤の変化の程度

主な生息基盤	調査地域			事業実施区域（計画道路等）		
	現況 (ha)	工事実施後 (ha)	改変率 (%)	現況 (ha)	工事実施後 (ha)	改変率 (%)
樹林地	85.49	82.33	-4	3.16	0	-100
農耕地	689.03	643.93	-7	45.10	0	-100
河川（疎林・草地）	64.11	63.15	-1	0.96	0	-100
河川（開放水域）	41.33	40.77	-1	0.56	0	-100
市街地・集落	232.80	223.56	-4	9.24	0	-100
計画道路等	0	59.02	-	0	59.02	-
合計	1112.77	1053.75	-5	59.02	0	-100

注1：現存植生図の作成範囲における各生息基盤の占有面積である。

注2：事業実施区域は、計画道路及び供用後の法面や側道等を含む道路用地境界までの範囲である。

注3：計画道路が橋梁形式の区間は橋脚設置位置が検討中であるため、全て橋梁形式の区間の占有地を便宜的に直接改変の立地として整理した。